

行政視察等報告書

令和5年3月20日

長野市議会議長 寺 沢 さゆり 様

報告者氏名 (代表)
議会運営委員会
委員長 北澤 哲也

この度、行政視察をしましたので、その概要について下記のとおり報告いたします。

記

- 1 視察区分 議会運営委員会 行政視察
- 2 視察者氏名 北澤哲也、金沢敦志、野々村博美、滝沢真一、布目裕喜雄、松井英雄、宮崎治夫、西沢利一、寺沢さゆり、手塚秀樹
- 3 随行者 課長 久保田浩樹、主幹 塚田勝彦
- 4 視察期間 令和5年2月6日(月)～ 令和5年2月8日(水)
- 5 視察先及び視察事項

視 察 先	視察日時	視 察 事 項
宮崎県 宮崎市	2月6日(月) 午後2時00分	・議会活性化の取組について ・地方議会DXの実証実験について
大阪府 岸和田市	2月7日(火) 午後1時30分	・政策討論会について ・視察報告会について
滋賀県 彦根市	2月8日(水) 午前9時30分	・議会報告会について ・議会活性化について

6 調査概要

月日	視 察 地 (市町村名等)	考 察 (所感、課題、提言等)
2月6日	宮崎市議会	<p>「議会活性化の取組について」</p> <p>特別委員会の設置基準の議論を開始するにあたって、まずは議会活性化検討委員会(議運メンバー)を特別委員会として設置。特別委員会に関する根拠法令が今までは曖昧であったため、法令で明確化する必要性があった。そこで、宮崎市議会基本条例を独自に作成した。さらに各特別委員会を設置する際、慣例的な設置手法を継続していたことについて疑問視され、設置基準を明確化する意見が出て、活性化委員会で協議が開始される。その後、議会活性化委員会の中での協議を継続するが、多様な意見がでてなかなか意見一致せず。令和4年でも詳細な設置基準がまだ確定できていない。</p> <p>ただ、今まで議会運営は慣例化していたが、今回の委員会の役割等を明確化する過程の中で、議会の活性化の様々な議論をさらに進められたことは評価できる。</p> <p>「地方議会DXの実証実験について」</p> <p>市民から議会活動がよく見えない、わからないというイメージを持たれているのに加え、投票率が年々低下し、平成31年には史上最低を記録した。そこでDXにより市民と議会の距離を縮めるためのプロジェクトを開始した。</p> <p>全国初となる市議会と民間企業が連携協定を締結して研究実証実験を開始。インターネット、モバイルを使い議員及び議会の活動が住民に見えて、議会と住民が双方向でつながるプラットフォームである議会DX「まちだん」を作成した。</p> <p>当初の内容としては、議会案内の動画撮影、大学生・高校生との意見交換、一般質問後の30秒感想の配信等を盛り込み、令和4年8月より市民公開開始、実証実験も行っている。</p> <p>本プロジェクトの現在の成果は、会員数の増加、メディアの掲載により注目度が上昇し、全国の地方議会から注目され、視察等が増えた。市民から好意的な意見が出され、参加者が増加。課題としては、実証実験の段階では企業から資金提供されたが、今後、さらに進めるためには市の予算獲得が必要で、現在数百万円を要望中。</p> <p>議会と市民の距離が遠い、活動が良く見えないといった課題に対し、議会DXをひとつの解決策として「まちだん」というプラットフォームを作成しているが、実証中とはいえ実際に成果が見えており、大変参考になった。</p>
2月7日	岸和田市議会	<p>「政策討論会・視察報告会について」</p> <p>議会活性化のため、政策討論会を積極的に開催している。討論会は、当初は常任委員会が3委員会、1つの常任委員会に1討論会であったが今はそれに縛られない。現在は、3分科会に分かれ、各分科会で年ごとに全議員がテーマを提案した中で決定する。討論の分科会は月1回、全体会議は年1回の開催である。討論会は、議員の自主運営で、事務も全て議員によってされている。ちなみに特別委員会があるが、現在は「庁舎建て替え」の委員会のみ。</p> <p>基本的に討論会は公開で傍聴は可能。分科会によっては非</p>

2月8日	彦根市議会	<p>公開のこともある。加えて、市民の意見を聞くこともある。例えば「子ども食堂」がテーマの際、現場の人からの意見聴取を行った。</p> <p>提案書・提言書の取扱いは、まずレポートを各議員が提出、それを副座長と事務局が取りまとめ要点記録にする。その後、提案書・提言書を各分科会で作成、担当部局を明記し、理事者に提案・提言する。ただし、提案書・提言書に対する回答は求めない。回答は求めないが、議員によっては議会でさらに質問して議論を深めている。また、継続的な議論がさらに必要と思われた場合、翌年に似たようなテーマで討論が続くことがある。</p> <p>課題としては、予算がなく必要な場所に視察に行くにも自腹となっている。視察や予算の必要性から、今後、政策討論会を特別委員会化したいとの意見もある。</p> <p>討論会の内容そのものは長野市の特別委員会に近いが、議員主催の自主勉強会のイメージに近い。提案書・提言書に対する回答は求めないので、内容に制限がかかるものではなく、自由闊達な討論が行われるものと思われる。</p> <p>自主開催の為、議員自ら準備や事務処理を行わねばならず負担も大きいが継続されており、その積極的な姿勢が評価できる。</p> <p>(その他として、議会改革の取組過程、視察報告会の開催等についての説明を受ける)</p> <p>「議会報告会・議会活性化について」</p> <p>平成28年までは視察対応は事務局が受け入れていたが、他市での例を考慮し、視察対応プロジェクトを設置し、以降は議員が対応。コロナ禍以降は視察対応がなくなったことから一旦解散した。</p> <p>議会改革の取組は、平成24年の議会に関する市民アンケートの結果から、議会改革が必要と認識され、取組がスタートした。まずは「議場開放促進委員会」、「広報委員会」、「広聴委員会」の3組織を設置し、調整会議で管理した。</p> <p>議会報告会は各常任委員会により各地で4回ほど開催。広聴委員会で報告会のあり方について検討～ワークショップ形式で開催。ワークショップの内容を市への政策提言とした。</p> <p>選挙年齢の18歳への引下げを受けて若年層へアピールするため、市内3大学、彦根東高校とワークショップ形式で意見交換。その後、各種団体とのワークショップが続き、一般市民の声が聞こえていないとの課題が出て、一般の市民を対象に従来の形でも開催する。</p> <p>さらに、議会報告会として新たな取組「ワールドカフェ方式～カタリバ」を企画し、大型商業施設でオープン型の報告会を開催、同時に各種イベントも実施。そのひとつは彦根浴衣まつりで開催。その後、コロナ感染症の拡大から、オンライン議会報告会（ライブ配信）を開催。「議会広聴の日」を年数日設定し開催。</p> <p>「大学との連携」</p> <p>地方自治及び地域社会の活性化と地域における人材育成に寄与することを目的とし、滋賀大学経済学部と連携及び協力に関する協定を締結。学生によるワークショップの開催や学</p>
------	-------	---

		<p>生が議員を取材し冊子を作成。さらに議会報告会「カタリバ」では学生が進行を務めたり、議員インターシップを実施した。最初の連携が良好であったため、滋賀大学データサイエンス学部と連携を拡大し、現在データを使って施策を作っている。</p> <p>効果として、大学との提携により、学生が地方自治・議会への興味を深めてくれた。学生が参画してくれ、議員とは異なる新たな視点の発見があった。大学生の専門性を議会に活かせる取組の必要性がある。</p> <p>「議場の開放」</p> <p>彦根市議会は市民に議会を開放するカルチャー、伝統がある。子ども議会、議場コンサート、中学生・高校生・大学生傍聴を開催。イベントによる活性化のため、キャラクター議会の開催を行った。</p> <p>議会の活性化のために議会報告会の積極的な開催、市民からの意見聴取のための広聴を多様な形で開催、大学との連携で学生の視点や知識を用いる等、様々な手法で議会改革を積極的に行っていることは高く評価できる。</p>
--	--	--